

Newsletter

Hokkaido Aikido Federation, No.1, Spring 2023

2023年7月1日発行

北海道合気道連盟

発行責任者:佐藤 圭史

NL 編集担当:本間 雅富

NL 編集担当:Joslyne Abe

ごあいさつ

北海道合気道連盟会長 尾崎 响

この度、北海道合気道連盟の諸々の活動を紹介するニュースレターが発行されることになりました。これまでに無かった試みであり、身近な情報を各団体が共有する事が出来る画期的な取り組みであります。大歓迎したいと思います。

現在、私は全日本合気道連盟の理事長を拝命しておりますが、北見地方の湧別町に実家と合気道の道場があり、毎月、10日から2週間、帰省して合気道の指導を続けています。幸い自宅から車で20分の所にオホーツク紋別空港があり、一日一便、直行便が飛んでいます。とっても便利です。是非、合気道オホーツク中湧別道場に足を運んで下さい。大歓迎です。

私の家がある湧別町の隣が遠軽町です。その遠軽町のエリアに白滝があります。開祖・植芝盛平翁が明治時代の末に和歌山県田辺市から入植した場所です。“合気道ゆかりの地”です。この白滝の黒曜石が6月27日、国宝に指定されました。今、白滝は世界の注目を集めています。

皆様ご存じのように合気道は開祖・植芝盛平翁が幾多の武道の奥儀を極め、精神的修行をおさめられて創始された現代武道であります。二代道主・植芝吉祥丸先生の手によって組織化され体系化されました。



そして道統は現在、植芝守央道主に継承され、世界140の国と地域に大きな輪を広げています。国境を越え、民族を繋いで合気道が発展したのは、開祖・植芝盛平翁の“技と哲理”が世界の多くの人々に理解され、浸透したからであります。我々は開祖、二代道主、現道主の御心を鏡として修業し、後世に正しい合気道を伝えて行く責務があります。その意味において今回、発行されるニュースレターは大きな役割を果たすものと期待しています。

合気道所感(合気神社例大祭)

The Grand Festival of the Aiki Shrine 2023, Aikido Hakodate, Joslyne Abe

On April 29th, on behalf of Hokkaido Aikido Federation, I attended the Grand Festival of the Aiki Shrine in commemoration of O-Sensei's death on April 26, 1969. Hundreds of visitors and guests attended the festival on a beautiful, sunny day. The visitors were standing around the shrine on the grounds under the trees.

The festival began at 11:00 a.m. with the processional entrance of the Oomoto priests followed by Ueshiba Moriteru Sensei and Ueshiba Mitsuteru Sensei and their families. There were traditional Shinto rituals performed by the priests and offerings of sacred sprigs of evergreen by the Ueshiba family and representatives from the Aikido world and the local community. There were two prayers and memorial services; one for the deities of Aikido and a second one for Ueshiba Morihei Sensei (December 14, 1883 – April 26, 1969) and his son, Ueshiba Kisshomaru Sensei (June 27, 1921 – January 4, 1999), enshrined therein. The prayers for the Aikido deities were completed first and each offering was preceded by clapping 4 times. Next, the prayers for the ancestors of the Ueshiba family were conducted and each offering was preceded by clapping twice.

A special Shinto prayer was recited by the priests and all guests together. Afterward, Doshu made a speech, welcoming the visitors and thanking all the guests and dignitaries. A ritual demonstration of Aikido was performed within the shrine. First, Dojo-cho performed a hono embu, followed by Doshu. Standing so close to the shrine and observing the embu right in front of me deepened my connection to the long ancestry in the Ueshiba family. Dojo-cho is the fourth generation and his two young sons were also present. Doshu's embu was powerful and so graceful. The continuation of the Aikikai is healthy and well supported. Visitors marveled at the movements displayed in front of their eyes, in the same shrine built by O-Sensei. The festival closed with a celebratory meal in the dojo and surrounding gardens. Participants received box lunches and celebratory manju.

The Grand Festival of the Aiki Shrine was a wonderful opportunity to feel first-hand the atmosphere around Iwama. The grounds are very large with many trees and open space for relaxing and enjoying the nice weather. Across the street from the shrine itself is the dojo for training, living quarters for uchi deshi (live-in students), the kitchen and washing facilities. It was amazing to imagine walking on the grounds where O-Sensei lived and trained for many years.

In front of Iwama Station, there is a bust of the founder of Aikido which was unveiled on July 24, 2012 at the newly rebuilt station. Walking from the station toward the shrine, there are 5 stone monuments with photographs of the founder taken during his residence in Iwama. Visitors can read his important words while walking toward the shrine and dojo. Similarly, there is a large statue of Ueshiba Morihei Sensei within the shrine grounds. It is hard to miss the importance of Iwama to the Ueshiba family and all dedicated members of the Aikido community. Spending the day walking around the shrine, attending the festival and enjoying lunch on the dojo grounds with other Aikido practitioners was a wonderful opportunity to deepen my sense of purpose and commitment to protecting the legacy of Aikido in Hokkaido.

2023 年合気神社の大祭に参加して（和訳） 合気道函館道場 阿部ジョスリン

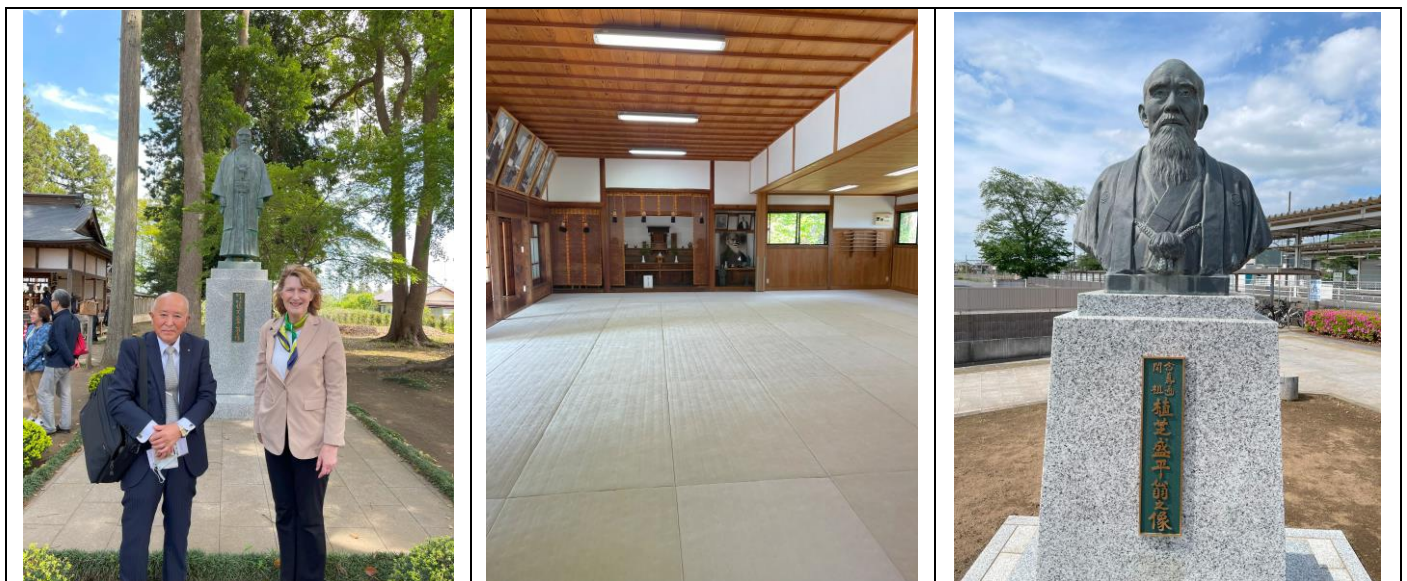
4月29日、北海道合気道連盟を代表して、1969年4月26日に亡くなられた大先生を偲ぶ合気神社例大祭に出席しました。晴天に恵まれたこの日の祭典には、千五百人を超える参拝客や来賓が参加され、皆、境内の社殿の周囲で木々の下に立ち開始を待っていました。

祭りは午前11時に始まり、大本教の神職に続いて、植芝守央先生、植芝充央先生とその御家族が入場されました。神職による伝統的な神事が行われ、植芝家、合気会、地元の代表者が榊を捧げました。合気道の神々への祈りと、そこに祀られている植芝盛平先生（1883年12月14日～1969年4月26日）と御子息の植芝吉祥丸先生（1921年6月27日～1999年1月4日）への追悼の儀式が行われました。合気道の神々への祈りの前には4回の拍を打ち、続いて植芝家の祖先への祈りの前には2回の拍を打ちました。

神職と来賓が神道の特別な祈りを一緒に唱えたのち、道主が挨拶され、参拝者を歓迎し、来賓や関係者に感謝の意を表しました。続いて神社内で合気道の演武がありました。まず道場長が、次に道主が奉納演武を行いました。神社の近くに立ち演武を拝見でき、私自身も、植芝家の長い系譜に繋がっていることを感じ取れました。道場長は植芝家の四代目にあたり、道場長の二人の御子息も同席されていました。道場長の演武は力強く、とても優雅なものでした。その演武からは、合気会が健全であり続け、多くの人に支持されていることが感じられました。大先生が建立した神社で、目の前で繰り広げられる動きに、来場者は感嘆の声を上げていました。例大祭は、道場とその周辺の庭園での祝賀会にて幕を閉じました。参加者にはお弁当とお祝いの饅頭が配られました。

合気神社例大祭は、岩間周辺の雰囲気を感じることができる素晴らしい機会でした。境内はとても広く、多くの木々や開けた場所があり、天気の良い日はゆったりと過ごすことができます。神社の向かい側には、修行のための道場、内弟子のための住居、台所、洗濯場があります。大先生が長年住み、修行を積んできた同じ敷地を歩き、とても誇らしい気持ちになりました。

岩間駅前には、合気道開祖である大先生の胸像があります。2012年7月24日に新しく設けられたものです。駅から神社に向かって歩くと、岩間滞在中に撮影された大先生の写真が飾られた5つの石碑があります。神社や道場へ向かう途中では、大先生が残した大切な言葉を読むことができます。また、境内には植芝盛平先生の大きな銅像があります。植芝家と、合気道を日々鍛錬する我々にとって、岩間がいかに重要な場所であるか、忘れることはできません。神社を散策し、例大祭に参加し、道場の敷地内で他の合気道家たちと昼食を楽しみながら一日を過ごしたことは、私にとって北海道の合気道が受け継いできたものを守るという目的意識と決意を高める素晴らしい機会となりました。



技法研究 ～体の転換～

第一回目の技法研究ということで、『体の転換』について書いてみたいと思います。どこの道場でも初めの方に行く基本であると思います。合気道北都真武会のやり方を書かせて頂きます。

① 相手に手を取らせる瞬間に息を吸い指先を開き、相手と結びます。足は逆半身になっているので、相手と鏡合わせになっている爪先に突き合わせます（写真下参照）。



② 手を取らせた後、息を吐きます。慣れないうちは八部目くらい吐き、少し息を残していた方がやり易いと思います。吐いた時、自分の手は自然とお腹の前にきます。この時、相手は自分の方に導かれます。相手の導きが不十分な時は、出ている方の足で受けとの距離を詰めます。余計な力を入れず脱力を心がけます（写真下参照）。



③ 取らせた手を結んだままゆっくり転換します。転換時に手を切らないように心掛けます（写真左参照）。

④ 転換後の手の高さは、剣を構えた位置（お臍の高さ）になります。相手は前足に重心がかかり動きづらい態勢になっていることを確認します。

⑤ 強い腰を作るのは勿論ですが、吸う息で『結び』、吐く息で『導く』感覚を養って下さい。

（了）

合気道北都真武会 本間雅富

会員所感 1(全日本合気道演武大会・団体)

全日本演武大会に参加しての感想 合気道室蘭道場 戸田 実

令和五年六月二十七日(土)午前十二時より、日本武道館で開催された「第60回全日本合気道演武大会」に、当連盟「室蘭道場」会員十四名で参加させて頂き、ありがとうございました。大会前日は、横浜で友人がやっている道場で二時間位稽古をし、本番に向けた。その後、友人達と交流会を行い、楽しく夕食会をし、親睦を深めた。コロナ禍で三年間位会っていなかった為、話が合っ合気道の話でアツという間に夜中になってしまった。大会当日は、日本武道館に朝10時頃に全員が集合し、東京にいる人達で座席や場所を示して下さり難なく場所に着くことができました。感謝しております。北海道合気道連盟は39番目で青いタタミで演武となり、32番目の所で下の会場に集まり整列し出場を待った。次々と順番がせまって出場となった。掲示板は、北海道合気道連盟しか出てなく「室蘭道場」がなかったのちょっと残念でした。でも演武会は皆、楽しそうに演武を行って、アツという間に終わり大成功の内に終了した。その後ゆっくり、各道場長、本部師範の演武を拝見し大変勉強に成りました。大会も終わり無事北海道に帰ってきました。室蘭道場道友達も合気道は「継続は力なり」で一年一年稽古して邁進していこうと約束をした。

会員所感 2(全日本合気道演武大会・若手)

全日本演武大会に参加して 道央合気道会 林 幸恵

この度、令和5年5月27日(土)第60回全日本演武大会に北海道の若年層指導者として演武に参加させていただきました。約一万四千人を収容できる会場がほぼ満席状態の中で演武をすることとなり、演武直前に地下2階の演武待機場所に入っからは、会場の熱量を直接肌で感じる事ができ非常に緊張を致しました。

受けは、私よりもさらに若い男子大学生(山田 琉斗)と女子高校生(村山 優空)の2名にお願いしました。次は自分の番というところで、周りの空気感に圧倒されて、少したじろいでいた所を、若手二人に励まされる形となりました。「林先生が私達を引っ張って行ってくれないと困ります!」と言われ、本人としては情けない話ですが、若い受け二人も成長しているのだなと感じた瞬間でした。若手二人に鼓舞される形となり、北海道を代表して出場するからには中途半端なことはできないと腹をくくることができ、演武に臨むことができました。

演武後は、私以上に受けの二人が演武に参加できたことに感銘を受けており、今後より一層稽古に励もうと感じたようです。私も若手の育成と北海道合気道連盟の発展、合気会の発展のために少しでも尽力できるように頑張ります。このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



会員所感 3(全日本合気道演武大会・指導者)

合気道に感謝して 札幌合気道会 川越 敬子



2023年5月27日(土)日本武道館、晴天。

「第60回全日本合気道演武大会」にて、私は個人の部で演武する機会を得ました。この日本伝統武術の晴れの舞台に立たせて下さいました関係者の皆様、北海道連盟様、そして我が札幌合気道会、また私の演武の受けを快く引き受けてくれた林竜さん、太田祥一さんのお二人にも心から感謝を申し上げます。

20年前、子供の習い事にと、親子で始めた合気道。その私が、やがて全日本の場で演武することになるとは、夢にも思いませんでした。合気道に出会い、そこで人と出会い、技を学び、悩みもたくさんありましたが、かけがえのない大きな喜びを得ました。

今回大会出場にあたり、また合気道から気づきと学びを得た体験を書かせていただきます。出場を伝えられたとき、一生の思い出となる大きな喜びを得た反面「失敗はできない、でも新たな技に挑戦したい」との思いが湧いてきました。受けを担当してくれた林さん(弐段44歳、合気道10年目)、そして太田さん(初段41歳、合気道8年目)は、当会の中堅でも若手の部類に入ります。

約10年前、私も先輩の受け役でこの大会に出場しました。その経験をもとに、私も彼らに成長する機会を与えられたら、と考えたのです。しかし実際は、練習を重ねるにつれ、私を成長させ、チャレンジする気概を与えてくれたのは彼らの方でした。私の思いを「受け」止め、彼らの思いが「技」を磨き、より難易度の高い技へ導いてくれました。その過程で、自らの「取り」をも高める様を私に見せてくれたのです。

「受け」は「砥石」であると以前、聞いたことがあります。その言葉通り、彼らは「取り」である私を研ぎ上げ、私たち「受け」と「取り」が一体となる「私たちの演武」にまで高めることができたのです。演武を終えた時、私たちはみんな満面の笑顔でした。受けと取りがお互いを高め合ってこそ、技は完成するのでしょうか。合気道の「稽古とこころ」、人と人のつながりの真髄はここにあると思います。演武を通じ、互いに語り合い、高め合うこと、これからも挑戦し続け、また一步高みへ近づけるよう精進したいと思います。

加盟団体静動 (イベント案内)

※詳細は各団体に問い合わせを

合気道張碓道場

8月9・10日 子供合宿(張碓道場)[会員限定]

岩見沢合気道会

8月19・20日 暑中稽古会(当別町体育館)

編集者より：ニューズレターで案内出来るイベント情報がありましたらご連絡下さい。また、技法研究、合気道雑観も募集しております。経験年数は問いません。技法のこだわり、伝えておきたいと思う技法、合気道に関する考え方、合気道初心者の感想、なんでも結構ですのでお待ちしております。

連絡先: aikido.hokutoshinbu.since2002@gmail.com

郵送希望の方は Tel 090-2072-2289 までご連絡下さい。 北海道合気道連盟理事/北都真武会 本間 雅富